

# ACE CLASSIC LONDON

101-103 ST. MILDREDS ROAD LONDON SE12 0RL ENGLAND TEL0181-698-4273

## 新車ともまごうばかりの'60年代のトライアンフをラインナップ さすがに英国のトライアンフ・スペシャリティ"エース"

「日本にあるトライアンフ？ ここにあるのに比べたら、全然足元にも及ばないよ。第一、極上のトラを手放すわけないだろう。国外ならなおさら違いからね。もし売りに出されたトラがあったら、それはわけありだよ。まあ、ここは別だからね。後は、いかに愛情を注いで一流の、最上の、そして本来のパワフルなトラにするかだ。あいつらが目を覚ましたら怖いよ。何しろタイガーだからね」開口一番、このエース・クラシックのオーナーであるラッシュワース氏は答えた。

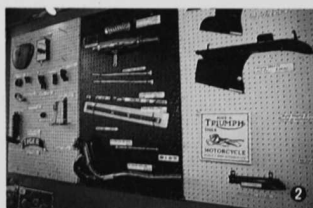
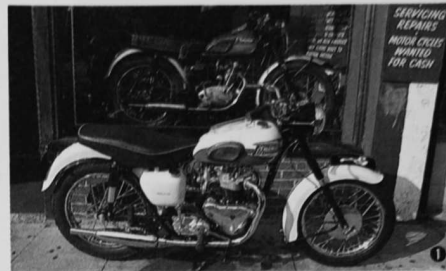
天文台で有名なグリニッジより、車で約15分ほどの所にショップを構える「エース・クラシック」は、イギリスの、ロンドンのトライアンフ専門のスペシャリティだ。彼の言葉、そして店の名前通りに、ここにあるトライアンフは、ボンネビルにしるTR6にしる、これが旧車？ と疑いたくなるほどの新車の輝きを放っている。フロントフェンダー上のナンバープレートには、この店のキャラクターである飛びかかる虎の絵が手描きによって描かれている。これは最近の作品？ らしいが、評判も良く売り出すことを検討中とか。タイガーがよほど気に入っているのだろう。

旧車を新車レベルにレストアするのは醍醐味のある作業だ。しかし、トラに関しては、程度の良い物はまだまだあるし、まず第一にほとんどのパーツが全て揃うところか他の旧車と違うことだ。とラッシュワース氏は言う。確かに、旧車ファンの中ではト

ライアンフを支持する人が絶対的に多い。部品の供給といった理由以外にも、トラ独特の繊細なカラーリング、パーチカルツインの造形美と鼓動、速さ、弾けるサウンド、あまりにも有名になったエンブレムに代表されるブランド名等々の魅力に惹かれるのも無理はない。

イギリスにおいて、トラオーナーならば、エースの存在を知らない人はいない。また、日本、それ以外の海外にも多くお客を持っているのもこのショップの特徴である。それも、ラッシュワース氏のトラに対する情熱と自信があってこそだろう。

世界を相手にしているエースは、世界の頂点に立ったトライアンフ同様にその世界のエースなのだ。



①組み上がったばかり！ 中身も新車同様のTR5/500。②③④⑤店の中央に置かれた'60年代のジュークボックスがロッカーズの匂いを発散し、当時のロッカー達がぶらりと入ってきそうな雰囲気がある店内だ。ショップの外周りも雰囲気がある。⑥オーナーのクリフ・ラッシュワース氏(45)は、若かりし頃はバリバリのロッカーズだった。愛車であったトライアンフに魅せられて、現在の職業についたトラ狂いでもある。現在、息子のケビンが彼の右腕で、多分後を継ぐ予定らしい。となるとエース健在は当然続くのだろう